

令和7年11月27日 草津市都市再生本部会議

開催日時 令和7年11月27日(木) 午前11時15分から午前11時30分まで

開催場所 庁議室

出席者 市長、辻川副市長、南川副市長、教育長、総合政策部長、総合政策部理事(草津未来研究所担当)、総合政策部理事(経営・DX戦略担当)、危機管理監、総務部長兼法令遵守監、まちづくり協働部総括副部長(まちづくり協働部長代理)、環境経済部長、健康福祉部長、健康福祉部理事(健幸都市づくり・地域共生社会推進担当)兼こども若者部理事(こどもの居場所づくり担当)、こども若者部長、特命監(都市戦略担当)兼都市計画部長、都市計画部理事(交通・開発担当)、建設部技監、建設部長、上下水道部長、教育部長、教育部理事(スポーツ担当)、教育部理事(学校教育担当)、議会事務局長

欠席者 監査委員事務局長

議事概要 下記のとおり

1. 開会

2. 重要報告

JR草津線を活用した広域連携まちづくりについて

資料に沿って高谷課長が説明

【主な質疑・意見】

(教育部長)

○「広域的な立地適正化の方針」を新たに策定するという認識でよいか。

⇒新たに策定していきたい。国は県を策定主体とするスキームを推進している。草津線沿線市や滋賀県でメンバー構成されている草津線活性化・複線化促進期成同盟会で勉強会を行いながら、県とともに策定する形にしていきたい。

○沿線他市に説明した反応は。

⇒関係市からは草津市と広域連携を進めていくことに対して前向きな反応をもらっている。沿線各駅周辺に不足する都市機能を草津駅で補完すること、広域的な立地適正化の方針を策定すれば、各駅周辺のまちづくりに国費が取り込みやすくなるメリットがあることは理解いただいている。

○草津線の複線化はどうしていくのか。

⇒複線化は引き続きめざしていくことになる。沿線他市では草津線の維持に危機感を持たれている。これまでの利用促進だけに焦点を当てるのではなく、広域での都市計画の最適配置を考え、各駅前のまちづくりに取り組み、駅同士が連携していくことで、草津線の活性化を考えていくことが大切である。

(総合政策部長)

○琵琶湖線沿線のまちづくり勉強会も発足しているが、草津線にも関連してくるのか。

⇒滋賀県とJR主導で、琵琶湖線沿線まちづくり勉強会は別途進行中である。琵琶湖線については課題がまだ不明確な段階であるのに対し、草津線は課題が明確であり、利用促進に向けて広域的な立地適正化の方針の策定に取り組む必要がある。草津は両路線に関わる立場であるため、草津線、琵琶湖線どちらも大事であることを、県や関係市町に伝えており、今後、両線のまちづくりは関連してくる。